

秀作

2022

第20回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

「ダークツーリズム」が与える影響とは

東京都・東京都立国際高等学校 2年 佐藤 環

「ダークツーリズム」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。これは、災害や戦争などによって被害に遭った土地、人類の悲しみや死を対象にした観光のことで、「人類の悲しみの記憶を巡る旅」と定義されています¹⁾。ここからは、このダークツーリズムの是非と経済の関係、つまり災害を観光資源とするべきか、そうでないかというのを見ていきたいと思います。

日本は地震大国と言われるほど地震が多い国であり、平成23(2011)年3月11日に発生した東日本大震災はそれを最もよく示している例です。私の祖父母が住んでいる岩手県宮古市も震災の被害に遭いました。震災の日、海には漁師の親戚のおじさんの船がありました。私が生まれたときに作られた、私の名前が入った大漁旗が掲げられた船だったそうです。そんな思い出のある船や家、おじさんが飼っていた犬も津波の被害に遭いました。そんな東日本大震災が起きてから今年で11年が経とうとしています。現在は復興が進み、ほとんど、もとの街並みが戻ってきています。ところで、被災地を訪れたことはありますか。

「被災地は観光地ではない。」

これは、私が東日本大震災について調べていたときに見つけた記事の一部です。震災後、多くの芸能人や有名人がテレビの取材で被災地を訪れました。数年も経つと、不謹慎な格好で来る人やポイ捨てをする人、心無い言葉をかける人もいたそうです。被災地は「命の尊さ」を知る場所でなければならないはずだ、被災地に来る目的が改めて問われている、と防災活動をする人が言っていました²⁾。これは、被災地を訪れて観光する、という先程の「ダークツーリズム」への反対意見だと考えられます。たしかに、観光のために、被災した土地や建物を残しておくことで、当時のことを思い出して辛い思いをする方々がたくさんいると思います。平成26年版の「国民生活に関する世論調査」によると、「今後の生活の力点(今後の生活において、特にどのような面に力を入れたいか)」の中で、「レジャー・余

暇生活」と挙げた人の割合は過去の調査結果と比較すると、東日本大震災以降、35.8%から37.5%に上がっています³⁾。このことから、人々は心の豊かさを求めており、震災によって精神的な面でも大きく被害に遭ったということは言うまでもありません。

しかし、被災地である岩手県では「ダークツーリズム」を^い活かし、東日本大震災の経験を活かした観光業が盛んに行われています。例えば、三陸復興国立公園という公園がひとつの例です。東日本大震災によって被災した三陸地域の復興に貢献するために平成25年5月に創設されました。八戸、宮古、釜石、気仙沼など日本有数の水揚げを誇る漁港があり、新鮮な海の幸を味わうこともできます。災害からの復興を目的とした公園は国内初で、多くの観光客が全国から訪れています⁴⁾。三陸復興国立公園の中心に位置する浄土ヶ浜は三陸を代表する景勝地です。私も、夏休みに祖父母の家を訪れた際には必ず行きます。しかし、この浄土ヶ浜も震災で甚大な被害を受けました。浜辺にあるレストハウスは、屋根のすぐ下まで波が到達したそうです。

日本への国際観光客は平成23年に震災の影響で大きく落ち込みました。前年の平成22年の訪日外国人旅行者数は861万人でしたが、平成23年には622万人まで減少しました。また、岩手県内の観光客数も、前年から14.4%減少しています³⁾。このように、東日本大震災によって観光業も打撃を受けました。岩手県は震災以前から観光に対して力を入れていたため、とても大きなダメージとなりました。また、東日本大震災によって宮古市の管理する観光施設の被害額は約110億円にも及び、さらに、復興するためにも^{ほく}莫大な費用がかかります³⁾。そこで、「ダークツーリズム」が活用されています。宮古市では、観光客誘客のための新たな取り組みとして、津波遺構や震災の記憶の伝承を目的とした防災ガイドへの取り組みを支援しています。その中で特に意見が分かれるのが震災遺構についてだと思います。震災遺構というのは、災害によって被害に遭った建物や工作物のことです。残すか、壊すか。東北にも震災遺構は多くあります。これらを残していくことで、後世の人々に津波の猛威を伝え続けることができるのか、これらを残すことで、被災した住民たちに当時の辛い被災体験を思い出させてしまうのか。宮城県気仙沼市の県道まで流れ着いた全長約60メートルの大型漁船は、当初、震災遺構として保存を目指しましたが、住民の約7割が震災を思い出したくない、と撤去を求めた

め、解体と撤去が決まりました^{5・6}。一方で岩手県宮古市の田老地区にある「たろう観光ホテル」は、国がはじめて、残存した建物を震災遺構として保存することを決定しました。東日本大震災によりこの6階建てホテルの4階まで浸水し、1・2階は破壊されて鉄骨が剥き出しになっている状態です。その姿から、大津波の破壊力を感じることができます。また、防災ガイドにも活用されており、観光業でも一役買っています^{7・8}。

では、国内の他の「ダークツーリズム」の例も見ていこうと思います。まず、日本国内で戦争に関係する「負の遺産」としては、広島県の実験ドームが挙げられます。第二次世界大戦時の昭和20(1945)年8月6日、広島に原子爆弾が投下されました。原爆によって頂上の円蓋と鉄骨が剥き出しになっています。昭和41年に広島市議会が原爆ドームの保存を決定し、平成8年12月、世界文化遺産へ登録されました。被爆体験を伝える貴重な建物として、原爆の威力や悲惨さを今に伝えながら、核兵器の廃絶と世界の平和を訴えかけています⁹。広島市を訪れる外国人観光客数はコロナ禍前まで年々増加傾向にあり、平成24年から令和元年まではずっと前年を上回っています¹⁰。この原爆ドームも、日本にとっては大切な観光資源のひとつとなっています。

また、現代日本の新たな「負の遺産」としては、東日本大震災や福島第一原発事故で被災した福島県が挙げられます。福島県では、「ダークツーリズム」の手法に基づいて、「福島第一原発観光地化計画」という計画が発案されました。その発案書は、福島が経験した極めて稀な「原発事故」、その復興過程を Tourism Resource として積極的に捉えることで新しい地平が見えてくる、と述べています¹¹。

やはり、災害などの「起きた出来事」というのは、時間が経つにつれてどんどん忘れられていってしまいます。「ダークツーリズム」は、そんな悲劇の風化を防ぐ前向きな役割があります。これまでの観光は、楽しさや愉快さなどのポジティブな感覚を味わい、観光客はその地域の素晴らしい一面を見るところでした。一方で「ダークツーリズム」は、その地域が持つネガティブな一面に目を向けて、地域の人々の悲しみや怒りに思いを馳せるといえるものです。過去の歴史の痕跡がはっきりと残る場所を巡り、過去の歴史を肌で感じる。この悲劇を忘れずにいよう、そう思えるものです。従来の「楽しい」観光に加えて、一歩踏み込んだ「ダークツーリズム」を行うことで、観光に深みが増し、観光業がよりいっそう発展し

ていくのではないのでしょうか。しかし、悲しい記憶を持つ場所であるからこそ、観光客は被災者の方々への配慮をする必要があります。はじめに紹介したように、被災地を観光地として訪れることに良い印象を持たない人も、少なからずいます。また、観光客が被災者の方々に辛い被災体験を思い出させてしまう可能性もあります。そのため、観光客は態度や発言に気を配る必要があるのです。仮に、被災者の方々の気持ちに全て共感できなくても、寄り添おうとする気持ちが大切だと思います¹²⁾。

ここまで、岩手県をはじめとした東日本大震災の被災地や戦争跡地などについて見てきて、私はそのような地域に「ダークツーリズム」は必要だと考えます。被災地も、そうでない地域であっても、自分たちのまちを活性化させるためには、やはり観光業に力を入れるべきです。より多くの人々に知ってもらい、来てもらい、そこでお金を使い、経済をまわす。災害によってもたらされたものだとしても、そこに魅力を見だし、今まで知られていなかったことを発見し、どんどん発信していく。震災によって、土地やその人々の心はもちろん、地域の財政も危機的状況に陥っていました。そんな絶望の中で、希望を見いだすために新しい取り組みを始めてみるということはとても良いことだと思います。起きてしまった災害をプラスに捉えて、観光として活かす「ダークツーリズム」の考え方を大切にしていきたいと思います。

(注)

- 1) KAYAKURA 地域考察メディア「ダークツーリズムとは何か」 2020年7月9日
URL <https://kayakura.me/dark-tourism/>
閲覧日 2022年2月11日
- 2) 「被災地は『観光地』ではない！」 週刊『防災朝礼』メールマガジン 第25号 2019年7月18日
URL <https://picturebook-owner.com/ml/25.htm>
閲覧日 2022年2月11日
- 3) 宮古市「宮古市観光振興ビジョン」 平成28年3月
URL <https://www.city.miyako.iwate.jp/data/open/cnt/3/6750/1/kankorevivalvision.pdf?20200108130013>
閲覧日 2022年2月11日
- 4) OPEN FIELD MUSEUM KAMAISHI「三陸ジオパークと三陸復興国立公園」
URL https://visitkamaishi.jp/sanriku-geopark_fukko-national-park/
閲覧日 2022年2月12日

- 5) 日本経済新聞「残すか壊すか 震災遺構が問う『記憶』」 2019年3月8日
URL <https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/shinsai2019/>
閲覧日 2022年2月12日
- 6) HUFFPOST「第18共徳丸の保存断念 気仙沼の市民アンケートで『保存の必要ない』7割」 2013年8月5日
URL https://www.huffingtonpost.jp/2013/08/04/18thkyotokumarun_3705471.html
閲覧日 2022年2月12日
- 7) テレ朝news「たろう観光ホテル“震災遺構”保存に初の国費投入」 2013年11月29日
URL https://news.tv-asahi.co.jp/news_politics/articles/000017015.html
閲覧日 2022年2月12日
- 8) 震災伝承ネットワーク協議会事務局「津波遺構たろう観光ホテル」
URL <https://www.thr.mlit.go.jp/shinsaidensho/facility/iwate-3-001.html>
閲覧日 2022年2月12日
- 9) 広島市「原爆ドームの歴史」
URL <https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/atomicbomb-peace/165469.html>
閲覧日 2022年2月12日
- 10) 広島市経済観光局観光政策部「令和3年版 広島市観光概況」 令和2年データ
URL <https://www.city.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/179403.pdf>
閲覧日 2022年2月12日
- 11) 「“福島第一原発観光地化計画”とは何か」 地域安全学会梗概集No.32 2013年5月
URL <https://iss.jp.net/iss-site/wp-content/uploads/2019/02/C04%E4%BA%95%E5%87%BA.pdf>
閲覧日 2022年2月12日
- 12) 訪日ラボ「ダークツーリズムとは？悲劇の記憶を追体験する新たな観光/国内外の事例と注意点も紹介」 2020年7月16日
URL <https://honichi.com/news/2020/07/16/darktourism/#:~:text=%E8%A7%A3%E8%AA%AC%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82-%E6%AD%B4%E5%8F%B2%E3%81%AE%E9%A2%A8%E5%8C%96%E3%82%92%E9%98%B2%E3%81%8E%E3%80%81%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E3%81%AE%E5%A4%9A%E8%A7%92%E7%9A%84%E3%81%AA,%E3%81%AA%E6%84%8F%E5%91%B3%E3%82%92%E6%8C%81%E3%81%A1%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82>
閲覧日 2022年2月12日

<参考文献>

永濱利廣『中学生でもわかる経済学』 KKベストセラーズ、2011年12月

